

映画の力で「社会を変えたい」と活動する渡辺さん



貧困の現実知って

横浜市出身で、バングラデシユの非政府組織（NGO）を運営する渡辺大樹さん（29）が、ストリートチルドレンの現状を知ってもらおうと、現地の仲間と制作した映画「アリ地獄のような街」（シユボシシユ・ロイ監督）が、5年がかりで完成した。11月7～20日に、横浜市中区の映画館「シネマ・ジャック&ベティ」で国内初上映が決定。収益を子どもたちの自立支援施設建設に還元するため、自主上映会主催者なども広く募集している。

（宮島 真希子）

バングラデシユの 路上の子ら映画化

渡辺さんは、同市都筑区出身。小学校から高校までを横浜で過ごし、金沢大学に進んだ。2001年12月に、大学ヨット部の選手としてタイ・プーケット島で行われた国際大会に出場したときに見たスラムの子どものたちの衝撃が、人生を変えるきっかけとなった。

子どもにはどうすることもできない「生まれながらの格差」を変える活動を模索し、卒業後、バングラデシユに単身飛び込んだ。言葉も分からず、知り合いない地。首都・ダッ

自立支援へNGO

カの路地を歩き、「怪しい外国人」と何度も追い返されながら街の人たちと言葉を交わし「やるべきこと」を探った。たどり着いたのが、親からも抑圧され、路上生活する子どももの保護・支援活動だった。

04年にバングラデシユの友人たちとNGO「エクマツトラ」（ベンガル語でみんなが共有できる一本の線という意味）を設立。シエルター運営と現地事情を広く内外に伝えるメディア制作の2事業を展開してきた。

監督のロイさんは、エクマツトラ代表でもあり、俳優の経験者。バングラデシユの子どもを取り囲む悲惨でつらい現実を伝え、自立支援の必要性を訴えようとするこの映画を企画した。

ふるさと・横浜での上映では渡辺さんが観客らと交流する計画もあるといい、渡辺さんは「映画を見た人が何かを感じ、動いてくださったら本当にうれしい」と、準備に奔走している。

関連イベントや自主上映についての問い合わせは、配給元のユニテッドピープル（横浜市中区）まで。ウェブサイトは<http://www.arigoku.net/>。045(212)151500。

11月に横浜で上映